〔第三種郵便物認可〕 昭和十年四月二十日 磐城新聞 〔土曜日〕 第四千三百二號 〔一〕

夕刊 磐城新聞 四月十九日發行

炭鑛民俗誌

小稿 山口彌一郎

二十

この外大和本草批正には『其上品を硯蓋とし』とあり西遊雜記に『摺黑に代用し』『燈火にかへた』と言ふ如く種々の方面に利用されたらしい。そして佐藤信淵が垂統秘錄に述べてゐる如く盛んに採炭業を勸め、湯長谷藩主又國益を增すものとして地方民に稍々反對の形勢のあつたのを押し切つて採炭を許可した等石炭を漸次重要視する傾向は既に古くからあつたものと思はれる。斯くして炭田地は勿論他の地方にも石炭と民俗との關係が深まり、特異な炭鑛民俗とも言へきものが生じて來たのであらう。

ほんの小稿にすぎないが將來の研究の一つの踏石ともし度いと思ふ

昭和九年十一月稿、同十年三月修正

潮聲硯靜抄帳

磐城俳句會 渡邊武門選

風呂吹や深雪にこもるみちの奥 武門

凧磐城の空は澄み切つて

飯蒸器瓦斯の炎のおだやかに

元朝の湯の岳雪をいただけり

年賀狀幼きものゝ芋版に

籔の奥鶯なきて二月かな 石城

寒月にひかる水車の飛沫かな

籔入や灯くらく爐のまろび

凧を賣る店一ぱいの朝日かな

寒月にひかる利鎌の納豆の壁

贈横山新任警視

珠雲 小野務平

檢閲森嚴人眼完

爲欣鄕黨夢魂安

恭謹令德萬人仰

今日終能拜顯官

贈千葉第二檢長

方今稀見育英材

維德維才世夙雅

春宵漫筆

四 五十嵐雄之

しかるに男性にして性ホルモンを試みたい連中の多くは貧婪飽くなき性慾を滿足させようとする輩か、さもなくば性ハ放縱に身心衰惰し故某名優をはじめ何れも銷しつくしどうか靈藥の偉効によつて再び舊の樣な狀態に復して昔日の夢に浸りたいといふ虫のよい連中が多い。嘗て九大榊博士がスタイナッハ氏若返り手術を宣傳してそれに應じて遙々九州迄出かけ氏の手術を受けたのもその道の猛者たりしなり。

ソウ容易くは破らせない。特殊の疾病で早老した病人は別として人爲的に無闇に若返らんと企てゝも之は天意に叛く者である、こゝで私は不老長壽の願望者に漢方渡來の秘法をお傳へすることゝしやう

漢方醫學の敎ゆる所によると人間が其天壽を完うするに最も大切な要件は精の餘力を出來得る限り豐富に蓄えて置くことである。この餘力は性慾統制が不老保命の中心をなす問題である。漢方境に依つて決して一樣に律學者や仙術者が上下幾千年することは出來ないが兎に亘つて此問題に關して幾角泄度即ち精の排泄消費に多の經驗を積んで建設したものが所謂『房中術』である。今日の統性法である。房中術に關する文獻は多數おくことが不老長生の緊要ある。千金方、素女經、玄事で、茲に不老長壽と性との問題が重要視せらるゝ所以である。殊に人間四十に及べばその精の餘力は半減し、故に中年以後の人では性慾統制が不老保命の中心をなす問題である。漢方境に依つて決して一樣に律學者や仙術者が上下幾千年することは出來ないが兎に亘つて此問題に關して幾角泄度即ち精の排泄消費に多の經驗を積んで建設したものが所謂『房中術』である。今日の統性法である。房中術に關する文獻は多數女經、玉房秘訣等尤なるものゝ中に『多接少泄』に盡くる、即ち『樂んで淫せず』である、そこに洋々たる妙味がある。

生れて食つて子を生んで死ぬ——此ハ自然の定石

次回讀物豫告

誰が殺したか

國枝史郎作

職業婦人のうちで最も尖端的でありインテリであるのはダンサーでせう。さうしてあらゆる營業のうち最もモダンであるのはダンスホールでせう。私のこの作はそのダンサーとダンス・ホールとに取材して作づた探偵小說であります。あらゆる犯罪のうち最もセンセーショナルなのは殺人事件であらねばなりません。この作はその殺人事件をとりあつかひました。この作中に現れて來る人物には極めて人情的でありみちめであるところのダンス・ホールの靴磨きの老人などがあります。華やかにして享樂的なるダンス・ホールの玄關に、貧しきために却つて日本獨特の古風の人情家であるところの靴磨きの老人を存在させたことはこの作を特に異色的にしたことと思ひます。作者たる私はダンス界に出入して七年になります。この世界のことはつぶさに知悉してゐる筈であります。で、この作に書かれてある事は、およそ私の知悉してゐる事であります。ですからこの作は極めて實感的のものと言ひ得られます。

踊り子をヒロインに

作者の言葉

講談

戸隠奇譚 (162) 『山』の怪秘

丸山寛雄作 眞木浪畵

人形芝居奇遇 (三)

それでも平七郎は峠は越してしまつて、あとは時の問題だと思つた。まづ自分が何より氣にしてゐた顯光寺の本尊秘佛を馬鹿彦の注進によつて無事に道具屋から買ひ取つたゞけでも自分の面目が立つて大滿足だつた。たゞ、お豐の事だけが頭にあつた

ある秋晴れの一日だつた

平七郎は、馬鹿彦をつれて近所へ散策に出た。外に出ると秋の陽が汗ばむほどに照りつけてゐる午後だつた

『江戸は少し日和がつゞくと賑やかだな』

平七郎は傍の馬鹿彦を顧みた

『刈馬樣、この人間はどこにどうしてゐるのでせう。全く佃煮にするほどゐますね』

『どこにと云つて、江戸は餘程廣いから方々に棲んでゐるのだ。それが一所に集まつてくるからこんな人數になるのだ』

『すると江戸は餘程廣いと何より氣にしてゐた顯光見えますね。おらが村の三倍位はありませうな』

馬鹿彦は例によつて突拍子もない事をいつて平七郎を苦笑させた

『今日はどの方角へ歩いたものかな』

『どこにかく山下へ出ませう』

『山下？奥山へでも行きたいのか、三色餅が食べたいのだらう』

平七郎は馬鹿彦の食辛棒をよく知つてゐた

『それより神田の筋交目附に、すばらしい生人形がかゝつたんですつて、今までの人形芝居とは變つてゐるんだそうです。そこへ入つて見ませんか』

馬鹿彦は思ひ出したやうに云つた

『よし、そこへ行つて見よう』

二人は少し後戻りして御成街道を歩いて神田へ出た

筋交目附は流石に混雜を呈してゐる。芋を流ふやうだ。小屋物の泥繪具で畫いた看板が不快の念を與へるほどに張り廻してある。木戸番の呼聲が一層神經を苛立たせる。群衆のざわめき子供の泣き聲、物賣りの掛聲、間斷ない鉦と銅羅の騷音は居合抜きの小屋からであらう

平七郎と馬鹿彦は、人波の間に挾まつて目白押しで見世物小屋の前を通つてゆく。人ゐきれと日向くさいので鼻持ちならない

『刈馬樣、これですよ』

馬鹿彦に云はれて不圖見れば烏娘の隣の小屋物が人形踊りの一座であつた。繪看板の下には色々な扮裝をした人形が立並んでゐる。木戸番のところには大きな鬼の寒念佛が立つてゐて鉦を叩いてゐる。中では今演藝が始まつてゐるらしく調子の亂れた三味線の音に混つて太鼓の鳴る音もする。木戸の上に大人十文、小人五文といふ見料表が張つてある

平七郎はは二十文拂つて馬鹿彦と中へ入つた。中では恰度石童丸を演じてゐるところだつた。小屋一杯になつた見物も、しんみりした氣分に浸つてゐるのかあたりは水を打つたやうに靜かだ。

石童丸の幕がしまると小屋内は打つて變つてどよめきが漲つた簡單な小屋がけなので棧敷などはない。そこで幕が引いたあと見物は土間へしやがんで煙草を吸ふ者もある。子供を泣きすかしてゐる者もあつた。すべては如何にも小屋もの氣分である

平七郎は始めて江戸の人になつたやうな氣がした。安息日には朝から親子揃つて氣保養に來る江戸の町人が羨ましかつた

平七郎はかうしてゐる間も見物の女の顔を一々調べて見ることを忘れなかつた若しやこんなところへもお豐が見物に來てゐないかと思ふのだつた

二十日

（小名濱測候所調査）

日出 五、〇〇 月出後 七、五一
日沒 六、一三 月沒前 五、一三
滿潮 前四、一〇 干潮 前一、一五
後五、四五 後一、一五

舊土曜 新四月三日 丙寅 月齡 二十二 日 友引 宿 開 日

貸切の御用命は是非〜
電話 二一一七番へ
親切叮嚀、流線形
安全第一、最優良車設備
サーヴィスモツトー
平町四丁目
貸物一般 鈴木自動車部

吸入用酸素 純度99%
◎秤ノ取リ方・糸・修繕・垂れ
モノサシ マス カリ
計量器 体温器 寒暖計
計量器
科内藥局 電話四〇番

流線型入車
御待ち兼ねの卅五年式流線型第一車が入車致しました。是非御試乘をお願ひ致します。
電話六四〇番
尼子タクシー

良品廉賣に勝る商略なし
磐城タクシト特約代理店
金物問屋 和洋銅物
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は◎の生命なり
◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話 六一番
本店 水戸線下館驛前 (電話 五五番)
支店 茨城縣土浦町田宿 (電話 六五三 八二四)
常磐線關本驛前 (電話平潟五四)
常磐線四倉驛前 (電話四八)
久慈濱支店
地在所
營業種目 石油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油、植物油、胡麻油、コーン種水、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
海上給油 (大津、平潟)
及油槽所 (小名濱、江名濱)

◎内臓外科 ◎外科一般 ◎花柳病科
自炊の便あり
入院隨意
平町田町赤心堂病院跡 (電話四七五番)
安齊外科醫院

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

入院隨意 (自炊の便あり)
外科 專門 X光線 科
平南町
上田醫院
病室完備 (電話一二九)

國は日本。凍魚はヒノマル
ヒノ◎マル
魚凍
約特手一番水日本
元賣發
平製氷株式會社
電話二二八・三六一番
平町代理店
印魚問屋
電話五二八番
鯛。海老。白魚。イカ
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……

石炭 一〇〇%サーヴィス
暖氣ニ向ヒダンゼン値下げ
一等塊 正味五十斤入一俵 金貳拾八錢
特塊 同 金參拾五錢
品質が優良 デナケレバ 値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
目方が正確
此の點は當店を絶對に御信用願ひます。
◎市内ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
電話 三一七番
石炭 コークス 豆炭
阿部石炭商店

廣告
…試驗機完備…
發電機
マグネットチアージ
蓄電池
コイル
モルモーター
一般電機捲替並修理
久野電氣工業所
平町紺屋町五三
(呼電)三六六六番

專門 耳鼻咽喉科
高柳 耳鼻咽喉科醫院
平町驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明
(入院應需 自炊ノ便アリ)

早咲きの年に限つて花の壽命は長いもの

某古老の生きた統計に裏書して 茲兩三日續く今年の櫻

花の早い年はその代りに壽命が永い――松ケ岡公園の麓に住む某古老は、幾年來の生きた統計によつて、花早く隨つて散るも亦早からう。と悲觀した人々の惜春を慰めたが其の當否は姑らく措き、漸く見頃に入つた十五日を終日終夜降り通し、薄ら寒い翌十六日中一日を置いた丈けで一昨十七日の夕刻から再た雨。と云ふ具合だつた今年の花暦を繰つて見ても、花の壽命のそうあるべき筈のものではないらしく思はれるに反し、今の處それ等の降りも強ち『花を散らすの雨』になつたとも見へず、色の些か褪せたのは止むを得ぬとして、公園、新川端とも萬朶依然として綠亂の綸を保つてゐる。斯くして花は今十九日の聯合消防檢閲から明二十日の土曜と續き、茨城方面の團体をはじめ、之を最後の花見る人々でゴツタ返しの混雜を現出すべき明後二十一日の日曜頃に至り漸く紛紛の落花に逝く春の哀愁を思はしむる事にならう、最初第三日曜の二十一日迄は六つかしいと觀られた今年の花は人々の豫想に反し、存外長かつたわけである

整然たる統制下に 消防機能を展示

けふ聯合檢閲の壯觀

午署管内四町十八ケ村約四千名の聯合消防檢閲は既報の如く今十九日午前八時元午署前を基準に本町通り北側へ二列横隊に整列、八時十分より柴田署長の騎馬檢閲を受け、終了の組より順次機械器具とも午中グラウンドに集合、午前中規律訓練、午後から

令旨奉讀、金馬籠授與（飯野、夏井、澤渡）火災功勞者表彰（湯本町細谷モト）優良組員表彰、柴田署長訓示講評、警察部長訓示、來賓祝辭、受賞者總代答辭、組頭總代答辭

終つて組員一同の整然たる分列式を擧行した

金馬籠に輝く事績

夏井澤渡飯野各組の功勞

別項―晴の消防檢閲に際し畠田警察部長より金馬籠各一條を贈られた三組の事績左の如し

（夏井）組員一同夏井川変通杜絶に際し渡船作業をなした外貯水池の設置に盡力

（澤渡）組員協力村營教員住宅建設、巡査駐在所の改築並に道路改修

（飯野）組員協力火防貯水池の設置並に道路改修に盡力

觀世素謠會

天長節を卜し 友謠會が主催

磐城友謠會主催好謠會及午觀世會賛助の素謠會は、宗家直門の新進觀世友資、大西信弘兩氏を招き來二十九日の天長節を卜し午前八時より谷口樓に於て開催する

（日本畫）『百日草』土田麥鳥（松韻會）櫻川（磐城炭鑛觀世會）雲雀山（小野新町川前觀世會）葵上（研謠會）清經（磐城友謠會）通小町（好謠會）藤戸（平觀世會）草紙洗小町（來賓）絃上（來賓）外に獨吟、連吟、仕舞

番外―午後二時頃 天鼓（觀世友資、大西信弘）

仕舞 鞍馬天狗（觀世友資）

卷絹（大西信弘）

『鳥と紅梅』津田魯祖『鯉桃』酒井三良『雨』結城素明『猫』根上富治『春』伊東深水『氷』扇田平八郎（水彩畫）『白百合』田邊至『運河』中西利雄『寢椅子の少女』小泉繁『アネモネ』曾宮一念『朝の海』南薫造『ルノアール家』渡邊浩三

當代一流畫伯の傑作品を一堂へ

あす磐中で公開

縣下師範校中學校圖畫科協議會は今十九日午後一時より磐中工作室に於て前東京美術學校圖畫師範科主任教授、現日本圖畫手工協會長午田松堂伯爵を講師として圖畫教育奬勵會並に錦巷會等より參考品及び同校生徒の成績品等の展覽會を開催した、なほ同會は明二十日正午に終り後櫻花の下に懇親會を催すと、尚ほ展覽の錦巷會より出品は四十數點、圖畫教育奬勵會は帝展審査員級各氏の左記十數點で就中本縣出身勝田蕉琴氏の『卵と玉葱』は斯界に自他共に許す同氏が最大力作品で、本の子經隆が女の子になる地頭は、隆基―經隆―成隆―泰秀―行泰等、相續いだのは其の系圖で略知される

僊『鎮鳥賊』山村耕花『初冬』鏑木清方『鶯』榊原紫峰『冬瓜と茄子』岸田劉生『野々宮』近藤浩一路『圃菜』堂本印象

田校に徴兵署を開設執行さ

郷土の史的時事解説（二）

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に内壇安置五佛像國寶各指定に就て

勿來生

且つ彼れの祖は、國魂系圖が、同文書より猶ほ之を摘抄すると四郎直平（忠衡の三男）が孫國魂三郎盛基にして、其の子經隆が女の子になる而して又當時岩城郡國魂地頭は、隆基―經隆―成隆―泰秀―行泰等、相續いだのは其の系圖で略知される

祖父經隆、亡父成隆、舍兄秀隆、弟泰秀（正安四年九月七日、鎌倉執權連署狀）〔國魂文書〕○同系圖にも、此の人達も明記する

石の如く。按ずるに岩城に於ける平氏は夙に三大家に分れ、其の本宗は忠衡流、次は忠隆（岩崎一流、三は直平（荒河）であり、爾來彼等の三子孫が舊石城海道、延いては石川、田村郡にまで蔓延、繁殖したであらう。そして國魂系圖の忠衡は、宛も普通本の則道に當る。（前節參考）

同時代、岩城の總領と思ふに足る、乃ち系圖、記傳かだ。此くすると系圖に云ふ其の父を隆行とすれば、正さしく文永前後の人で、又其の父師隆は文治前後の人は同人らしい

東目村（好島荘内）地頭岩城小次郎隆衡（德治二年丁未六月十三日、好島庄代が所務條府奉行裏書連署狀）〔飯野文書〕○岩城國系魂圖の小次郎隆衡、白土小次郎隆衡、乃至流布本に當る人なるべし。（後出の隆衡を看よ）

猶ほ右の名は、同文書の嘉暦三、四年中に見られるが北條末期に實在したのは明ない限りは、忠清以下の時代が想定するに難くなからう

建久三年（一八五二）七月源頼朝は海内を掌握して、遂に征夷大將軍を拜し、己れの政治機關を風光明媚なる鎌倉に開いたが、僅に三代にして滅び、尋いで北條氏が代つて之を執り、已來百二十餘年、正和五年（一九七六）七月、彼の暴長、不忠なる高時が執權に就いたが、其の非政は倍々飽くことを知らなかつた

小名濱灣頭を壓する 二等巡洋艦那珂（排水量五七〇〇）

點呼の際四百名便乘許可

軍艦那珂は來る六月十六、七兩日鹽釜港十八、九兩日は石卷港に入港、海軍艦上點呼を行ふが小名濱港より四百名の便乘を許すことになつた、便乘し得るものは十五歳以上にして官公吏、議員、在郷軍人、海軍々人家族、學校教員、學生々徒等である、なほ同艦には海軍中佐 伏見宮殿下が御座乘遊ばされてゐる、因に同艦は排水量五、一九五噸速力三三節備砲一四糎七門大正十四年十一月横濱製造所に於て竣工した二等巡洋艦である

小川江筋臨時總會

改修費其他附議

小川江筋組合臨時總會は二十二日午前十時から午四体事務所に開き十年度臨時工事たる小川村關場地内排水門外數ケ所の改修費約六千圓を附議する

江筋議員改選 小川江筋水利組合會議員二十七名の改選は二十五日各町村役場で執行する

濱崎氏快癒

昨日から出勤

過般綴驛南方藤棚踏切の自動車事故で危い命拾ひをした磐炭副所長濱崎善三郎氏は其後の經過頗る良好で昨十八日より出勤、今十九日來午各方面を歴訪挨拶した

佐藤局長著任

今回の異動により平郵便局長に榮轉の佐藤守節氏は今十九日町内各方面に着任の挨拶をなした

壯丁調査委員囑託

本年度の壯丁徴兵檢査は來る七月三十日より同十七日より二十一日迄植田劉生『野々宮』近藤浩

春！物騒 素見中自轉車が消える

小僧さん失敗の卷

平町五丁目雜貨商遠藤英明（二〇）は昨十八日夜南町料理

歡樂に飛んだ副産 迷子や盜難騒ぎ

昨日の松ケ岡公園

一昨日の縣社賀祭りが生憎園へと繰り込み、御興奉仕の雨に崇られた反動的關係の町内青年團や炭鑛、遠くもあり昨十八日の本祭りは大津消防組員の法被姿なども加はつた觀櫻團は大小七十餘組の多きに上り、此の雜沓を呈した、縣社の雜沓で平署園内派出所の杜から流れる電氣蓄音器の厄介になつた迷子が五人。メロデーに誘はれた參拜歸内郷村の御内儀さんは二十の人々は漸次公園へ―公園餘入り、一人の消防手

舊正酒が演出した 内郷の大血陣

豫審終結 昨夜公判に付さる

内郷村大字綴字一ノ坪坑夫若松市中六日町生れ佐藤丑藏（三九）に係る傷害致死並に同宇堀坂坑夫大野村戸田宇平治郎生れ戸田市助（三三）に係る傷害事件は先般來平支部關口豫審判事係り審理中であつたが昨十八日夜結平支部の公判に付された

丑藏は二月四日（舊正月元日）午前十一時頃南隣の賣炭商小松川事吉浦權三郎方に招かれ同人及びその内妻阿部ウメ、北隣なる綴坑採炭夫草野藤光（三九）家主の沼田安榮及び藤光の叔父前記戸田市助等と會飲し、午後四時半頃酣の末藤光市助兩名と口論喧嘩をなし市助のため爐端に在つた鐵瓶を頭部に投付けられ顔頂後部に全治三週間の傷害を與へられたを憤激し復讐せんと双物を携帶しその場を逃げ歸つた藤光、市助兩名を追ひ藤光方表入口から突入せんとし折柄戸口に居合せた市助の友人芳賀仙治（三三）が阻止しようとしたので双物を揮ひ同人の左側鎖骨下部に突刺し重傷を負はせ出血多量で遂に死に到らしめ續いて屋内より飛出した藤光と格闘し吉浦方前附近で更に双物で藤光の左顳顬骨部及び左肘關節上部を刺し全治三週間の傷害を與へた、といふのである

陽春は誘ふ 相馬から歩いて妻探し

喧嘩を悔ゆる彼氏

相馬郡飯豊村土工渡邊貫（四八）妻キヨイ（三七）は去る十六日夫と些細な事からの喧嘩で子供二人を連れ行方を晦したので貫は蒼くなつて其の跡を追ひ徒歩で今十九日平町に來、平署に同人等の捜査願を出した

春惱ましい十七の長男

石川郡大字長田條太郎長男吾妻正一（一七）は春に誘はれて今十九日午後三時頃無斷家出、平町方面に來た形跡あるので小野新町署から平署に捜索の手配あつた

長谷川長八翁

四倉町字仲町元同町漁業組合長長谷川長八翁（七二）は豫て病氣の處昨十八日午後零時十分永眠、葬儀は明後二十一日午後二時自宅出棺海嶽寺に於て執行するが、氏は同町漁業界の功勞者としてその長逝を惜まれてゐる

長谷川家美學 前記喪主太郎氏は先考の遺言により學校基本金三十圓、消防組二十圓、在郷軍人分會へ十圓を寄附した

半玉お披露目 久本から久丸と云ふ人形の樣な綺麗なのが出現

操業の擴張が 下流耕地に影響

勿來町で關係炭鑛へ交渉

勿來町地内水田約三百町歩は大日本炭鑛勿來坑々内排水の爲下流耕地の鑛毒被害著しく先年交渉の結果沈澱池を設け被害を少からしめてゐたが一昨年來炭界好轉による操業の擴張から排水量も増し現在の沈澱設備では到底不充分なので苗代の播種季に當面し町當局では近く町農會と歩調を合せ炭鑛に對し設備の改善方を交渉する筈である

二等巡洋艦那珂の見學旅行

平商四年生の兵營宿泊

平商四年生は來月一日より四日迄仙臺工兵隊へ、同五年生の修學旅行は同十四日より十八日迄關西方面に行ふことになつた

産組視察團來平 荷路夫産組視察團來平

青年團員は來る二十、二十一日の兩日綠川團長引率の下に平方面の産業組合見學に來平する

優良生産者表彰 石城郡優良生産者表彰授與式は二十日午前十時から平署會議室で擧行する

穀物共同受檢組合の穀物優

映畫見物中掏らる

草野村泉崎農渡部

トモさんは十八日午後四時半頃平町世界館で映畫見物中五圓餘入りの蟇口一個を掏られたので何れも平署に届け出た

操業浪花亭を素見中傍に置いた他人の自轉車

價格（二十圓）が何られ

時の間にか消えてゐるので其他遺失金品なども相當な數字に上つてゐる

暴行 飯野村大字上釜波字島田農小黒清三郎（四五）は昨十日夜花見酒で泥酔の上通行人に暴行を働き平署に檢束された

花見客 昨年を凌ぐ

平驛から觀た景氣

花は昨年に比し幾分早かつたがそれでも昨年の最盛季であつた十五日から十八日迄に至る昨今兩年の平驛乘降對比統計は

	今年	昨年
十五日	五、九六八	四、〇九八
十六	六、七〇〇	六、五四六
十七	二、四四七	六、四五三
十八	九、六四三	七、〇六九
計	三、七六八	二、九、二六六

で博覽會などの關係から早くも四千五百九十二名の增加を示して居り明後二十一日の團体などを合算すれば昨年を遙かに突破するであらうと

美味で評判のイワキサロン 平町電三五二

廣告

美の流線美
グロ化を排してクローム直線の交又も美しき
35年型拔群の陸の王者 荷入
流線ダツチ
彩りも花と艶を競ふ……銀ネヅミ
御試乘下さい
素晴らしい乘心地を！
東京鐵道局公認
不二タクシー
電話三二番

小學生用防水マント
新入學生用 ¥1.40 ¥1.80 ¥2.20
パラソルとスカーフ陳列。
ツルヤ

品質第一
電話一六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

株（買フ 賣ル）御方ハ
沼株式店へ
平町田町五四
電話平73

父長八儀 永々病氣加療中の處藥石其効もく十八日午後零時十分死去仕り候
追而葬送の儀は四月二十一日午後二時自宅出棺海嶽寺に於て佛式相營み可申候
昭和十年四月十九日
四倉町
親戚 男 長谷川長太郎
總代 高木寅之助
友人 菅波末吉
總代